

## 12

### イタリア手話とフランス手話における参照度の低さの表現 ジェレミー・クーン\*、カルロ・ジェラーチ\*\*、ララ・マントヴァ\*\* (ジャン=ニコール学院／高等師範学校 [フランス] \*、 ミラノ・ピコッカ大学 [イタリア] \*\*)

#### 背景

通言語的に、談話の指示対象をよく知らないことは、様々な構造で表される。これには認識的不定表現（例：ドイツ語 *ingendeinen*）、非人称表現（例：フランス語 *on*）、空主語のような統語的なストラテジーなどが含まれる。

#### 目的

本発表では、イタリア手話（LIS）とフランス手話（LIF）における「参照度の低さ」について、通言語的および通伝達モード的な観点から考察を行う。イタリア手話とフランス手話に見られるパターンは、手形状と顔の表情に関する限り、既知の類型論に適合するものであり、フランス手話とイタリア手話の微細な差異は、既に現れている変異の範囲に収まるものであることを示す。

#### 方法論

データはイタリア手話とフランス手話のネイティブ話者から採取している。エリシテーションの後、被調査者は文法性とそれぞれの文の異なる文脈での適切さを判断した。参照度の低さを抽出することに関わる文脈は Barberà and Cabredo Hofherr (2016) に依った。エリシテーションと評価は全て手話により、口話は書かれた物を含め一切使用していない。

#### 結果

我々は2つの存在量子（SOMEONE と PERSON）について議論を行い、一つは非手指標識（顔をしかめる）により、次いで空主語の文について検討した。ここでの例はイタリア手話による。中立的な非手指標識では、存在量子は完全に参照された解釈を示し、参照度の低い解釈は極めて周辺的なものに留まった。（フランス手話の方がイタリア手話よりは許容された。）空主語文は2つの解釈の間に（1）のような曖昧さが見られた。

#### (1) a. PERSON/SOMEONE HOUSE ENTER.

‘誰かが私の家に入ってきたが私は誰なのかわかっていた。’ = 完全参照  
??/# ‘誰かが私の家に入ってきたが私は誰なのか全然わからなかった。’ = 参照度低

#### b. *pro* HOUSE ENTER

✓ 完全参照

✓ 参照度低

量子化と共に顔をしかめた表現が併用された場合は、(2)のように参照度が低い解釈のみが受け入れられた。

- (2) \_\_\_\_\_ :-(  
 SOMEONE/PERSON HOUSE ENTER.  
 #完全参照                      ✓参照度低

一連のテストによって、これらのストラテジーのステイタスについて非人称表現と不定表現の対比が判定された (Cabredo Hoffer 2008)。その結果を表 1 にまとめている。また我々は存在マーカが認識的不定表現かどうかのテストも行い、表 2 に結果をまとめた。最後にカタロニア手話に見られるように、「高い」位置が非限定の解釈をもたらすかどうかのテストを行った。その結果はここでは表示していないが、フランス手話とイタリア手話については、これは該当しないことが示されている。

| テスト            | SOMEONE | PERSON    | Null subj. |
|----------------|---------|-----------|------------|
| 頻度の副詞を伴う低いスコープ | *       | *         | ✓          |
| 前方照応連鎖における共同参照 | *       | ✓LIS *LSF | ✓          |
| 一般的解釈との互換性     | *       | *         | ✓          |
| 協調的解釈との互換性     | *       | *         | ✓          |

表 1: 非人称表現構造が全てのテストで正値を取る

| Test             | SOMEONE/PERSON |
|------------------|----------------|
| 指示対象に対する無知       | ✓              |
| 義務のモーダルでの自由選択の解釈 | ✓              |
| 同定方法に関する感度       | ✓              |

表 2 : 認識的不定表現が全てのテストで正値を取る

## 分析

イタリア手話とフランス手話は、項を表示しないままの場合と SOMEONE と PERSON を適切な非手指標識のペアにした場合のいずれにおいても低い参照度を示した。カタロニア手話においても同様の選択肢が取れる。しかし、カタロニア手話と違ってイタリア手話とフランス手話では空間が不定性や特定性を示すために使われることはない。SOMEONE と PERSON は (ドイツ語 *ingendeinen* のように) 認識的不定表現としてふるまうが、空主語は (イタリア口語のように) 非人称マーカである。

## 参考文献

1. Aloni and Port. 2012. Epistemic indefinites and methods of identification. In Alonso-Ovalle and Menéndez-Benito (eds.), *Epistemic Indefinites*. Oxford University Press.
2. Barberà and H. Cabredo. 2016. When ONE patterns with SOMEONE: Defining the properties of two indefinite pronouns in Catalan Sign Language (LSC). *FEAST*.
3. Cabredo H.(2008). Les pronoms impersonnels humains. *Modèles linguistiques*